

## 第7回観光まちづくりワーキング会議

■日 時：12/2（金）10：00～12：00

■場 所：本庁舎3階会議室

■出席者：阿部（部長）、杉村、水谷、三浦、BG田村、山里ネット田村、多田、樋口、河内  
事務局\_\_宮田、立花、阿部  
オブザーバー\_\_（一社）RCF 新倉

### 1 JTBデータの紹介（遠野ふるさと商社 杉村）

- ・ インバウンドの傾向、アクティビティの予約傾向、アクティビティについては、タピナカ（旅行中）での予約が多い。今後、OTAの拡大が予想される。
- ・ インバウンドは長期間の滞在が主。それも考慮して今後の遠野ならではのツアー企画づくりが重要。
- ・ そばうち、神楽の見学のアクティビティは全国的に多い。

### 2 遠野市観光基本計画検討プロジェクト（遠野ふるさと商社 杉村）

- ・ 今日の議題としては3つ。

- (1) 観光ビジョン案
- (2) 施策の優先順位付け
- (3) KPI 目標値

水谷：

- 前回の振り返り（別資料P2-3を参照）
- （1）観光ビジョン案について

別紙の富川屋作成の観光ビジョン案について ABC案（3つ）を提示し説明。

多田：新しい出会いなどを含めての物語、遠野らしさがあるA案がよいかと思う。

日村（山里）：A案に前回のキーワードが散りばめると良い。

樋口：既存のものにも良い部分ある。「息づき」という言葉がよい。体で感じるとか、ここに来ないと感じる事ができない、というような意味あい。

河内：短いほうが良い。A案がよい。

田村（BG）：コピー的にはA案。これをどのように使うのか、どこで使うかで違うかなど。観光客には弱い。内向きにはよいが、外向きには弱い？かも。ビジュアルも合わせるとよい。

阿部：A案。

サブ「語りたくなるわけがある」を「訪れたくなるわけがある」にするとか。B案のサブを持ってくるとか。

荒井：A案がずっと入ってくる。

三浦：A案 富川さんと自分の考えが一致している。

田村（BG）：見せる場所によって、サブとメインを変えるとか。内向きの場面と外向きの場面で変えるとか。ポスター（PRするイベントによって変更）の使用用途によって変化させるとか、英語表記はアドバイザーなどを含めての方がよい。

河内：言い回しを反対にするとか。（『遠野物語』を後ろに）

杉村：皆さんの意見を踏まえ、富川さんとも共有し再度検討し提案したい。

○ (2) 施策の優先順位検討について

主に「施策の方向性の構成について」 P10 から 26 まで。

・ 14、15 ページ他地域の事例

※赤字部分が遠野市でも施策に位置づける事業

教育旅行・修学旅行誘致の強化、映像作品、マンガ・アニメと連携したプロモーション、2次交通強化、デマンドバス運行、歴史的町並み、ユニークベニユーの保全、活用。

観光CRMカスタマーリレーションマネジメント(※)の検討、観光人材の育成、民間の新たな取り組みの誘発、起業の支援など。

※ 遠野市全体で観光客のデータを蓄積、管理して次の来訪につなげる。

・ 18 ページ 施策の方向性

・ 19～26 ページ アクションプラン

これらの施策のほか、追加修正等ご意見があればいただきたい。

阿部：よくまとまっている。優先順位、時系列等での表示があると良い。

水谷：どれを優先度高くやっていくのか今日確認したい。

田村(山里)：高清水をいきなり「有料スポット」としての議論にはならないと思う。目指すべきところとしては良いと思うが。イベントを行って、一部その収益を得るなどが考えられる。手を付ける順番として優先ではないと考える。

田村(BG)：時系列で表示すると良いと思うが、並列で並べてしまうと違和感が出るかもしれない。

杉村：有料とするかどうかも含めて「検討」という形としたい。

阿部：「伝承園の再構築」はカップパ縛りではないですね。

杉村：あくまでカップパは来客者にとってのつかみ、入り口、である。

宮田：高清水の道路の補修、駐車場の拡張も含めて来年度には進めたいと考えている。

○ (2) 施策の優先順位検討

新たな観光推進組織体制について 資料P27 から 30 まで

杉村：P28 構成団体等、具体的な体制構築については別途相談していきたい。

水谷：P29-30 2023年以降のステップ(ロードマップ)の整理について説明。

ステップ1「(仮)遠野DMO協議会」、の立上げ期 エントリーテーマの立上げ、DMOの確立、イベントに頼らないプロモーションなど。ほか、ステップ2、3について説明。

ステップ2から自主財源の確保(知的財産権、動産、不動産など)から収益を得て運営。当初は受託事業等の運営だが、2～3年後からは自主財源の確立で運営が理想。

効果が出るまでに2～3年かかっている。(レビックが現在関わっている事例でもそれぐらいかかっている)

30 ページでは、具体的な施策を「官」「官民連携」「民」で分け、具体的な施策(例)を説明。

開都民の分け方、ステップアップ欄の考え方についてご意見を頂きたい。

杉村：特に P29 の施策展開の考え方が重要になってくる。「施策展開の考え方」にある事項が優先し、それ以外の施策については、優先順位は下がるという施策の考え方。この方針が重要となる。みなさんからのご意見を。

田村（山里）：DMOを申請する期間を考えると申請から登録までに時間を要する。申請時期、期間なども時系列でいれておくと、より具体的。お金の流れも見えてくるのかなど。

杉村：DMO仮申請の時期もある。ただし、登録には自主財源・事業を確立させる必要がある。ステップ2の位置で時間をかけながら、また地域の中の人達に「観光のまちづくりを進める」という意思を知らせながら、DMOの申請に向けた動き自体は早々に進めたほうがよいかと思っている。その辺を施策に絡めるかどうか、検討します。

阿部：官民連携について、民だけだと進みにくく立ち上げづらい。官民連携ですすめるといふ枠組みを整理する必要がある。P30の官民連携の例1～5の施策はその考え方に基づいた提案なのかどうか。

民で立ちがりにくい施策については「官民連携」に入れておくことが良いかと思う。例えば、古民家の再生事業の「運営」は官民連携など。

水谷：官民連携の領域がかなり広くなると思うが良いか？

阿部：煩雑になってくるので、そのような考えも置きながら、単純化するという。

杉村：拡大解釈すると、官民連携の趣旨の下の方「地域づくりに向けて民間ノウハウの活用が期待されること」に集約されるのかもしれない。さまざまな事業が「官民連携」に入れると負荷と期待が大きくなる。ある程度取捨選択していくと良いと考える。

阿部：P29ステップ1の2023～2024にリーディングプロジェクトみたいなものを入れると見えやすい。ビールの里もそうだし、妖怪まわりもそう。

田村（BG）：2つの観点があって、1つはエントリーテーマをちゃんと盛り上げますよ、ということのリーディングプロジェクトと、数年先を見据えた自主財源の確保につながるような、良いプロジェクトが生まれないと、外が盛り上がっているけど運営母体が進まない、と。バランスが。

杉村：なかなか、あれもこれもというのは難しいと思うので、エントリーテーマというところと、DMO自主財源の運営を中心に活動していきながら。

田村（山里）：P28の今後の観光推進体制について、官には「遠野市」とあるが、P30の官に国、県、市と入っているのは？

水谷：P28にも国・県も追記しておくといいですね。

続いて、P31-36優先順位付けの検討について。ここは大事な議論となる。

- ・ それぞれの施策について、赤字を「官民連携新組織」、青「民間」や「観光協会」、黒字「官」が担うことを想定して作成。

杉村：何を活かして、何を捨てるかが重要と考えたい。

阿部：とおの物語の館のバリューアップについてどのように考えるか？

杉村：まだ具体的ではない。

田村（BG）：★印を見ると、プロモーションなどが重要となっているかと思うが、観光客が増えた際の受け入れ態勢が十分であるかも考えるべき。

田村（山里）：人材の育成、観光人材の確保、育成をステップ1にするべき。早めにやった方がよい。

杉村：P34の伝承園（食堂）の再構築には、ハードの整備と合わせてソフトの整備も大切。

宮田：伝承園は、2023年秋から半年かけて再構築する予定。

田村（BG）：情報を一元化する、プロモーションするウェブサイトの発信元はどこか？

杉村：それはこれから。

田村（BG）：新体制で何をするか、業務のボリューム感の話も必要かと思う。

河内：ヒト（人員）の部分がどのように固めていくのか、もう少しわかりやすくしてほしい。

多田：適切な情報発信を考えると6-4、6-3はステップ1にしてもよいのではないかな。

田村山：人が重要で、覚悟を持っていくことを考える。地域の人とどのように関わっていくのかが大切。

6-5はステップ1がよいのかも。

三浦：中心市街地が今後どのくらい残っていくのが心配。ある程度見込みを作っておかないと、ステップ3では、すでにシャッター街になってしまっているかもしれない。

杉村：どのように活性化するかというところでは、中心市街地では後継者がいないのが大きな問題。

阿部：空き店舗、空き家の今後の活用も重要。

杉村：P34 中心市街地での回遊性について。まちづくり、活性化、を考えたときに成果はすぐには見えない。ステップ2に入れているのはそこを読んでいる。

河内：メンバーが決まっていれば、ステップ1とステップ2での優先度も決めやすい。

### ○ (3) 目標指標の設定

主にKGI、KPIの設定について P38以降。

田村 (BG)：目標値の設定 宿泊人数 13.8万人だと、現在の宿の数だと稼働率を80%となるくらい。現実的でない。検討が必要。

杉村：指標についての意見を。市民満足度についてはどのように取るのかなど。

河内：商工会では、企業向けに満足度アンケートを実施している。

多田：満足度調査は確かに大変。産直などで出口調査したり、送付したものにアンケート回答してもらう方式。観光客に来て欲しい、伝統文化を継承したいかなどを項目に入れる。釜石では年一回行われているようだ。

田村 (BG)：キャパが少ない地域であるので、余計に丁寧にやっていくべきでは。

阿部：商工会、企業向けのアンケートは定期的にやっていくべき。

田村 (山里)：市民の満足度。ヒアリングをすることも重要ではないか。地域をずっと見ている人からのヒアリング。いくら観光客が増えても、消費額が減ってはいけない。人が増えて観光消費額も増える方向にしないといけない。

杉村：消費額は夏と冬でも全く違う。

三浦：宿泊について。ビジネス客専門、観光客専門の宿もある。その宿がどのように経営しているかを調べないといけない。

杉村：観光協会のHPに載っている宿は、観光客を対象にしていると考えてよいか。

荒井：大丈夫。

三浦：市民満足度について。「自分の住んでいるところは良い。みんなに来て欲しい」といえるかどうか。

杉村：満足度は別に、推奨度も必要。

杉村：目標値の設定P45についてはどうか？

田村 (BG)：過去に目標値に近い数字になったことはあるのか。

杉村：ユニークユーザーでは、ここまではない。

阿部：現状値は2019年のもの。目標としてはこのくらいでよいのかと思う。

田村 (BG)：キャパシティが気になる。

樋口：今まで日帰りが多いが、宿泊も増やす目標なので中心地の飲食店のキャパも考えなくてはならない。

三浦：観光客が苦手な宿がある。ビジネス客にはとんかつOKだけど、観光客にはとんかつNGとか。

田村 (BG)：そうすると宿泊客のキャパは下がるのかなど。宿泊者の目標は現実的ではないのでは。

河内：各宿泊の損益分岐点とかが必要ではないか。

阿部：観光消費額の換算が必要。客単価を出して

三浦：周遊のスポット数も1か所増やす目標とすると、1泊では十分観光できない。2泊を勧めるという考え方

が必要。

### 3 その他

#### (1) 山地酪農について

阿部：山地酪農について資料を見てください。(別紙1枚)

杉村：1月末までに、今日検討した事項を仕上げる方向で進めたい。

#### (2) 会議内容の公開

立花：遠野市のHPでこの会議の進捗状況を掲載したい。会議の資料も含めて公開したい。

阿部：関係者向けのフォーラムを開催するべき。

終了

宮田：次回の第8回については1月に開催予定。

